

ゴム練りの本質を原点から考える。「オープンロール動画」付きです。

第247回ゴム技術シンポジウム

『ゴム練りの基礎から実践へⅡ ～練りの原点から始める～』

主催：一般社団法人日本ゴム協会 研究部会・ゴム練り研究分科会

協賛：高分子学会，日本化学会，日本合成樹脂技術協会，日本材料学会，プラスチック成形加工学会（予定・順不同）

今回のゴム技術シンポジウムは，ゴム検査評価企業，ゴム練り機械メーカー，ポリマーメーカー，ゴム練り専門メーカー，ゴム加工メーカー，などの経験豊かな，多彩な講師陣による基礎から実践への，より現場に踏み込んだ，講演を予定しています。ゴム練りの改善，向上に取り組まれている第一線の現場技術者はもとより，ゴム練りに関心のある全ての方々のご参加をお待ちしています。

日時：2018年10月4日（木）10：45～16：50

2018年10月5日（金）9：40～16：40

場所：東京電業会館 地下ホール（東京都港区元赤坂1-4-8 TEL：03-3403-5181代）

受講料：日本ゴム協会会員・協賛団体会員29,160円，日本ゴム協会学生会員5,400円

※受講者が日本ゴム協会の正会員でない場合でも，ご所属の会社が法人としてゴム協会会員（賛助会員）の場合は2名様まで会員扱いの受講料で受付けます。

シニア制度対象会員 14,580円（60歳以上の正会員）会員外 37,800円

受講料には消費税・テキスト代を含みます。

申込方法：弊会ホームページ <http://www.srij.or.jp/> よりお申込みください（定員60名）。

送金方法：銀行振込（三井住友銀行 日比谷支店 普通No.7100847 一般社団法人日本ゴム協会）。振込み手数料は受講者側でご負担ください。一度ご入金された受講料は返金いたしかねますのであらかじめご了承ください。

問合せ先：一般社団法人 日本ゴム協会 第247回ゴム技術シンポジウム係

〒107-0051 東京都港区元赤坂1-5-26 東部ビル1階

TEL 03 (3401) 2957 FAX 03 (3401) 4143 E-mail: kenkyuubukai@srij.or.jp

	演 題	講 師・座 長
10月4日（木）		
10：45～10：50	開会のあいさつ	ゴム練り研究分科会主査 藤 道治 【座長】藤 道治
10：55～11：35	ゴム練りのトラブルとその対策	浜田技術士事務所 濱田 裕氏
11：45～12：40	練りの原点 オープンロールの練り（動画） <small>ゴム工業における「練り」について，どのような取り組みがなされ，どのように考えていけば優れた品質のゴム製品ができるのか，トラブルへの対応の基点から今後のゴム工業のあるべき姿と，サイエンスからゴム技術・ノウハウへの展開の仕方，ゴムの品学と在り方などについて言及する。</small>	（一財）化学物質評価研究機構 隠塚 裕之氏 【座長】亜細亜商工(株) 尾崎 航平
13：30～14：30	ニーダーとオープンロールのゴム練り比較 <small>IR（合成天然ゴム）/CB（カーボンブラック）ゴムのニーダー混練りにおいて素練り時間差でCB投入時の素練りIRの状態を変えることにより，通常のニーダー練りとオープンロール練りを模した練りの比較を行った。これらのゴムの素練り後・CB投入前のIRの物性，加硫ゴムのミクロ構造と，加硫ゴム物性を紹介する。また，オープンロール練りでのバンクのゴム断面から，バンク内ゴム流れの観察結果を紹介する。</small>	日本スピンドル製造(株) 岡本 浩二氏
14：40～15：40	動的粘弾性によるエラストマー複合体の新しい練り状態評価方法の開発 <small>熱硬化性エラストマー並びに，熱可塑性エラストマーの複合体における練り状態の新しい動的粘弾性指標（Ea, Gr）を考案した。本講演では，これらエラストマー複合体における動的粘弾性指標の物理的・化学的解釈について考察する。また，これらも含めた多角的な分析結果から，エラストマー複合体の練り機構を検討した実例について解説する。</small>	鬼怒川ゴム工業(株) 眞中 将一氏
15：50～16：50	ニーダーのメンテナンスとトラブル対策 <small>ゴム練り工場の設備が突然故障し，困られた経験のある方も多いかと思います。今回は加圧型ニーダーの特徴と，基本的なメンテナンスのポイント，トラブル対応を解説いたします。</small>	BONY POLYMERS(P)LTD 一瀬 省吾氏
10月5日（金）		
9：40～10：40	フッ素ゴムAFLAS, FFKMと練り <small>フッ素ゴムは耐熱性，耐薬品性，耐摩耗性，絶縁性等に優れた材料であり，Oリング，オイルシール，ガスケット等のシール材やホース材，電線材料として自動車，一般機械，建築，航空機等の分野で，高性能性ゴムとして広く使用されている。</small>	【座長】(株)明治ゴム化成 関口 晃司 AGC旭硝子(株) 八木 啓介氏
10：50～11：50	インターナルミキサーの練り <small>近年，自動車の低燃費化に伴いタイヤに求められる性能が高くなり，また，工業用ゴムにおいても高品質化による配合材料に対応するための混練機の改良が必要となっている。混練機において混練ロータは主要部品であり，配合，練りステージに応じた様々なロータが存在する。本報告ではファイナル工程向けのロータの性能を実験の結果を既存ロータと比較し，紹介する。</small>	(株)神戸製鋼所 亀田 康弘氏 【座長】入間川ゴム(株) 高山 正人 (株)日本製鋼所 富山 秀樹氏
12：40～13：40	連続押出プロセスによる合成ゴム材料の脱揮・脱水技術 <small>合成ゴムのベールやクラム製造プロセスでも特有の混練技術を必要とします。特に，合成時の残渣である有機溶剤やモノマーを除去する脱揮や脱水は，最終的なゴム製品の臭気や弾性率に大きな影響を与えるため，特有の技術を要します。</small>	
13：50～14：50	伝えたいゴム混練の要点 <small>本講演では，脱揮・脱水技術を中心としたゴム原料の製造プロセスについて説明するとともに，ベールやクラム（ベレット）を製造するそれぞれの手法について紹介を行う。</small>	元(株)エラストミックス 泉 信示氏
15：05～16：40	質疑応答	【座長】(株)鬼怒川ゴム工業(株) 小薬 次郎
16：40～16：45	閉会のあいさつ	ゴム練り研究分科会 副主査 一瀬 省吾

※プログラムは一部変更になる場合がございます。

☆お申込みはホームページ <http://www.srij.or.jp/> からお願いします。